

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200556		
法人名	医療法人 日の出会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒819-0043 福岡県福岡市西区野方1丁目16番28号 092-812-5032		
自己評価作成日	平成24年4月3日	評価結果確定日	平成24年05月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

30代～60代とスタッフの年齢層も広く、それぞれの持ち味を出して毎日支援させて頂いています。季節ごとのバスハイクや、少人数で交代で外出に出かけたりと、入居者と職員との距離が近く家庭的な雰囲気の中で生活しています。食事は毎食手作りで提供しており、おやつも入居者と一緒に行う事もあります。その他、入浴日以外の日は、白癬予防のために毎回足浴を実施しています。笑顔の絶えない明るく楽しい環境作りに日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ひだまり」は、JR、地下鉄、バス等の駅に近く、利便性の良い中で、整形外科、老健施設、デイサービス併設のグループホームである。独自の理念を掲げ、管理者と職員は、利用者の尊厳を守り、一人ひとりが自由で、のんびり暮らせるホームを目指し、家族の信頼と、協力を得て、利用者本位の介護サービスの提供を実践している。利用者職員は、公民館のいきいきサロンや、保育園児との交流、デイサービスに出向き、演劇等を鑑賞し、地域との交流の輪が広がっている。災害対策では、消防署が正面にあり、いざという時に心強いだけでなく、日頃から連携を取りながら非常時に備えている。また、母体医療法人を中心に、かかりつけ医との連携は、利用者一人ひとりに合わせた健康管理体制を構築し、利用者や家族から、ここを選んで良かったと思われるグループホーム「ひだまり」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年04月24日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所など職員の目につく所に運営理念を掲げ、職員はその理念を意識して業務にあたっている。	職員は事業所理念を共有し、利用者を先輩として尊敬し、利用者に寄り添いながら日々の実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月2回、公民館で開催されるサロン活動等に入居者と一緒に参加し交流を深めている。	町内会に加入し、入居者と一緒に公民館で開催される「いきいきサロン」に参加している。隣接のデイケアや老人保健施設のイベントにも参加し、訪問した園児らと交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロン活動の場を利用し、自治会役員や民生委員に事業所の地域での役割を説明し、地域高齢者の援助が出来るように努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において出た意見はミーティングにおいて報告し、事業所・職員の質の向上のために話し合っている。	2ヶ月毎の定期開催が困難で、直近の運営推進会議は開催されていない。過去の会議では民生委員の参加はあるが、家族や行政の参加が見られないが、今後の課題として取り組んでいる。	行政への働きかけと知見者の参加など、会議メンバーの再構築と、会議を年間スケジュールに組み込み、メンバーに案内状を送付するなど、定期開催の会議運営の工夫が望まれる。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常の業務の中で判断に迷う事項や、生活保護のしくみやわからない事項など担当者に相談して助言を頂いている。	日常の業務や、生活保護の相談事項等について担当者に対応して貰っている。今後は、運営推進会議への出席要請や、情報交換等、更なる協力関係を築くこととしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。玄関ドアはオートロック式の玄関になっているが、その日の職員配置等考慮し、時間帯を設け解錠している。火災非常時等は自動解錠される。	全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関ドアはオートロック式になっているが、その日の職員配置等考慮し、時間帯を設け解錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会や、法人内勉強会で学ぶ機会を得ている。虐待に関する知識を高め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修などで得た知識を、資料を参考にし職員間で話し合いをしている。	外部研修などで得た知識と、資料を参考にし、職員間で話し合いをしている。現在、利用者や家族等に成年後見制度を、必要とする事例は生じていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び解約時、書類を用いて説明を行い理解して頂いている。退去時は、情報を提供し退去先を紹介するなどの支援を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見・相談などは介護記録又は相談受付簿に記載し、対応策を考え実施している。	面会時に声かけやヒヤリングを行いながら、要望の把握に努めている。家族の行事への参加や支援が少ないので、今後の課題として、検討を始めている。	家族同士で話合える機会として家族会の設立や、運営推進会議の参加など、双方向の協力体制作りが期待される。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見・要望を聞く体制をとっており、意見や提案を業務に反映させている。また、意見・要望・提案があった時は、可能な限り迅速に業務反映できるように努めている。	職員の気づきやアイデアを聞く機会を設け、建設的かつ有用な意見は、可能な限り迅速に運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務や休みの調整など、職員個々の希望にできるだけ添えるよう努めている。他、ミーティング等で意見など発言する時間をもうけ、要望等を取り入れ、より良い職場環境作りに努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたって、性別や年齢を理由に採用対象から除外することはない。現在、30代から60代までと職員の年齢層は幅広く、知識や経験、資質などを考慮して働いている。	雇用条件に性別や年齢の制限は無く、職場のチームワークが良く職務満足度は高い。休憩室や更衣室・ロッカーの整備、休憩・休暇の取得など就労環境は整っている。職員の年齢層は幅広く、知識や経験、資質などを考慮している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会や全職員参加を対象にした法人内勉強会を通じて人権教育に取り組み、人権尊重を常に意識し業務にあっている。	法人グループの人権研修に参加し、ホームの理念である「入居者の権利の尊重」に沿って相互啓発をしながら、常に人権尊重を意識し業務に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通じてや、勉強会などで同法人内の職員との交流を図り情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの内容を分かりやすく説明し御理解頂き、本人の話を十分に聞き、思いや考え、生活歴を把握して入居してもらっている。可能であれば入居前に施設の雰囲気等を感じて頂けるように、家族に依頼し本人にも施設見学をしてもらっている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからの状態を家族へ報告し、要望を聞き、家族が安心できる環境を作り、信頼関係が築けるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設見学や入居申し込みに来られた時に、本人や家族に要望を聞き、必要に応じて他のサービス利用も含めて話をしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験を積まれてきた先輩として尊敬の念を持ち、お互いに知識を共有しながら、支え合う関係作りに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡調整を行い、情報を共有し、家族の現状や考えを理解した上で、それぞれ可能なケアを行う関係を築いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも面会に来やすいような環境・雰囲気作りを心がけ、馴染みの関係が継続できるように努めている。家族には、本人にとって面会は「一番の薬」と呼びかけ、家族の関係・絆が途切れることがないように働きかけている。	家族には、利用者との関係・絆が途切れることがないよう、面会や外出支援および病院受診の同行を働きかけている。家族は、職員の柔軟な対応とサービスへの満足度が高く面会数は多い。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の良好な関係を保つために、時には職員が仲介役に入り話を聞くように努めている。また、孤立しないように声掛けを行い、交流を深めていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても面会に行ったり、家族に現在の状況を聞き、他のサービス利用や精神的サポートに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望など普段の会話の中で汲み取り本人の希望・意向を叶えられる努力をしている。	普段の会話の中で要望を汲み取り本人の希望・意向を叶えられる努力をしている。また、家族とのコミュニケーションの場を持ち、些細なことでも情報を得る様にしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や趣味、特技などの情報を本人や家族から収集して、それをもとに経験を活かした生活を過ごしてもらえるように支援している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々接する中で把握出来たことは、管理日誌やカルテに記載し、情報を共有している。また、ミーティングで話し合い個々に応じたケアをするように努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やその家族との会話の中から課題を探り、ミーティングで話し合い介護計画を立案している。	職員の担当制を導入し、モニタリングに基づきケアプランを作成している。家族の要望や情報は面会時間の活用や、ケアマネジャーによる家族との連絡内容を基に介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌や個別の介護記録帳に経過記録を残し生活状況を把握して、職員間で情報を共有しながら介護実践や計画の見直しにつなげている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望には可能な限り応じており、その時々状況に応じて柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週火曜日にハーモニカ演奏のボランティア来居している。また、近隣保育園の園児との交流や、地域ふれあいサロンへ入居者とともに参加している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に沿う形で入居者の病状にあった協力医療機関や提携医の受診を受けてもらっている。場合により、以前からのかかりつけ医を受療することもある。	本人と家族の希望に沿う形で以前からのかかりつけ医での受診、または利用者の病状にあった協力医療機関や提携医の受診を支援している。受診には家族が同行し、受診結果を共有している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設診療所や介護老人保健施設の看護師と相談しながら、日常の健康管理を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、その都度現在の状況把握に努めている。また、家族や病院関係者と情報交換を行いながら早期退院できるように配慮している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階に職員間で話し合いを行い、かかりつけ医に意見を求め、本人・家族と話し合いの場をもち、全員で方針を共有できるように努めている。	早い段階に職員間で話し合いを行い、かかりつけ医に意見を求め、本人・家族と話し合いの場をもち、全員で方針を共有できるように努めている。契約書には、医療・看護処置の必要性が生じた場合の対応、方針について明記されている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し様々な緊急事態への対応を学習している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回防災訓練を行い、全職員消火器、避難誘導の流れ、各関係機関との連絡など、火災時の体制を整備している。地域の消防署、自治会に有事の際の応援協力をお願いしている。	年2回ホームでの自衛消防訓練を実施している。全職員が初期消火、避難誘導、関係機関との連絡など、避難方法を身につけている。地域自治会に有事の際の応援協力をお願いしているが、避難訓練の参加要請はしていない。	非常災害時における近隣住民の協力は、不可欠であり、地域住民の参加・協力による避難訓練の実施と、運営推進会議メンバーの協力支援が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応は慎重に行い、プライバシーを損ねないよう心がけている。	利用者の人格を尊重し、本人の思いや願い、要望を理解しながら丁寧に接している。個人の情報や記録物は事務所やスタッフルームで管理されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話などから本人の思いや希望を聞き入れ、その都度状況をみながら、出来る限り要望を実現できるように努めている。(買い物希望・外食など)		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気分や状況を考慮して、可能な限り意思を尊重し臨機応変な対応を心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、理容・美容の訪問があり、入居者の希望に応じてカットや髭剃りといったサービスを利用してもらっている。行きつけの美容室などがある方は、家族の協力により連れていってもらっている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を入居者の状態に合わせて、見た目に考慮した盛り付けをし、工夫している。テーブル拭きなど入居者に手伝ってもらっているが、ほとんど3食職員が食事を作り、片付けしているが、簡単な下処理程度の作業を一緒にして頂くこともある。	季節の食材を用いたメニューと、色彩豊かな盛り付け、利用者に合わせて炊き方など、調理に工夫が見られる。利用者はテーブル拭きや簡単な下処理程度の作業を一緒にすることもある。職員には食事代の助成があり、全職員が利用者と同じ昼食を楽しんでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録し、摂取量が少ない場合は個々の状態や好みにあった食事の支援をしている。食欲不振時は、提携医や管理栄養士と相談しながら補助食品を利用する事もある。水分をあまり摂取されない入居者には、水分補給ゼリーなどを使用する事もある。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔内・義歯洗浄を行っており、最終的に磨き残しなどを職員がチェックしている。又、毎週土曜日、訪問歯科が来居して口腔洗浄や義歯の状態をチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツや尿とりパットの使用は最小限で行うよう取り組んでいる。定時のトイレ誘導や、本人の訴え時にはその都度対応している。また、個々の排泄パターンに合わせて、個別に対応もしている。	トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。紙オムツから布パンツへの成功事例もあり、リハビリパンツや尿とりパットの使用は最小限で行うよう取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多く含まれた食品を献立に取り入れ、定期的な水分摂取により便秘予防に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は概ね決まっている。入る順番や所要時間は本人の希望に合わせて対応している。便失禁等のシャワー浴は適時実施している。	入浴は週2～3回とし、それ以外の日には毎日足浴を実施し清潔保持に努めている。入浴支援の工夫により入浴拒否のケースは見られない。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの意思に任せ、自由に生活してもらっている。居室に戻り、昼寝される方など個別に対応している。夜間、気持ちよく休むことができるように、日中の活動の場面を多く取り入れている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をもとに内容把握に努めている。薬の種類や量、服薬時間に変更があった時は、管理日誌とカルテ、口頭での申し送りにて情報伝達している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、バスハイクなど楽しみを持ってもらっている。気分転換に外食したり、飲食店におやつを食べに行ったりしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調を考慮しながら、近所の散歩・バスハイク・法人内の庭で外気浴されるよう支援している。また、家族の協力を得て近隣のショッピングモールに買い物に出かけたりしている。	利用者の希望を聞き取り、散歩・バスハイク・ホーム庭園での外気浴や、ショッピング・外食等の支援を行っている。家族の行事への参加(外食・買い物・花見)や支援が少なくなり、今後の課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所が行っている。本人から要望があれば、代わりに買い物したりしている。職員同伴での外出の際は、店頭で自ら金銭の使用をしてもらっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば家族と自由に電話連絡できるよう支援している。また、手紙のやり取りについては、本人の状態に合わせて職員が文章作成を支援したり、活動時の様子の写真を同封して送っている。ポストへの投函は職員が代わりにしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングが共用空間になっている。テレビ音量や照明に配慮し、季節にあわせた花や飾りの展示をしている。	利用者は、観葉植物や季節の花に囲まれたリビングに集い、日中を過ごしている。廊下には油絵の風景画が展示され、まるでミニ美術館の趣で落ち着いた空間となっている。整理・整頓・清掃が行き届き、全体的に衛生面の配慮がうかがえる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいて、気の合う人同士が会話を楽しんだり、本を読んだり、テレビを観て各自思い思いに過ごしている。居室で過ごされる方もいるが、ほとんどの方がリビングで過ごされ、団らんの場になっている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある家具を持参され、入居者の生活しやすい居住環境を作られるよう支援している。	馴染みの調度品や装飾品などを持ち込み、本人が居心地よく過ごせる様に、入居前の状況に近い居室づくりを工夫し、居心地良く暮らせる環境である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置し、家具の配置には注意し、入居者の行動の妨げにならないように配慮している。また、家族の要望・本人の安全の確保の視点からベッドでの就寝を止め、布団形式で就寝して頂くなどの工夫をしている。		